

土岐の昔ばなし
第六話

あふらげな
ばあさま



TOKI-City
tourism association
土岐市観光協会



お話しに出てくる弘法堂
(十六銀行駄知支店の南方約200mに位置)
現在も厄祭など行事で利用されています。



Webサイトへ

発行: 土岐市観光協会

事務局 〒509-5192
岐阜県土岐市土岐津町土岐口2101
(土岐市役所産業振興課内)
TEL 0572-54-1111 FAX 0572-54-0210
<http://toki-kankou.jp>

土岐の昔ばなし 閲覧・印刷できます!

右のQRコードか下記URLからWebサイトにアクセスしてください。
<http://toki-kankou.jp/toki-old-story>

あぶらげない ばあさま

駄知だちの家が、今よりずっと少なく、あちらにほつり、こちらにほつりで、周囲は田んぼや畑ばかりで、ところどころに竹藪たけやぶのある、田舎いなかだったころの話です。

村一番の本通りの弘法堂こうぼうどうの裏あたりに、じいさまとばあさまが、二人で住んでいました。ある日、ばあさまが、

「じいさま、今夜はきつねうどんでも食べようか」と言って、加登屋かとうやまできつねうどんを買いに出かけました。日はとつぷりと暮れ、暗くなっていました。ばあさまはきつねうどんを二つ、おかもちに入れ、竹藪の横を通って、すたすたと帰りました。

「じいさま、きつねうどんを買ってきたで、熱いうちに食べよまいか」と言って、おかもちから取り出すと、

「あっ！あぶらげがひとつもあらへん。おかしいなあ…」

「そりゃ、キツネにかっさらわれたわ」

「あぶらげのないきつねうどんなんか、うまないで。もう一度入れてもらってくるわ」

と言って、ばあさまは、また加登屋へすたすたと出かけました。そして、たつぷりあぶらげを入れてもらって、家へ帰り、おかもちから取り出してみると、またあぶらげがなくなっています。

「あれ、またやられたぞ」

ばあさまは、くやしくてなりません。じいさまは、おあずけを二度もくらって、腹ペコです。二人は、どうしてもきつねうどんを食べたくありませんでした。

ばあさまは、キツネがどこかに隠れていて、

きつねうどんを買いにゆくぞという声を聞きつけているに違いない。よし、今度は、黙だまって行くぞと自分に言い聞かせて、加登屋へ出かけました。加登屋でも、あぶらげを入れておくれと言わず、あぶらげを指さして入れてもらいました。ばあさまは、帰りの道々、

「あぶらげないぞ。あぶらげないぞ」
少し行っっては、また、

「あぶらげないぞ。あぶらげないぞ」とつぶやきながら家に帰りました。

「じいさま。買ってきたで」

と行って、おかもちの中から取り出してみると、あぶらげのいっぱい入ったきつねうどんが出てきました。じいさまとばあさまは、それはそれはうまそうに食べました。

それからというもの、ばあさまはきつねうどんを買うときは、黙って出かけ、なにも言わずに、きつねうどんを買って、

「あぶらげないぞ。あぶらげないぞ」と、つぶやきながら帰るようになりました。

そのうち『あぶらげないばあさま』と皆から呼ばれるようになってしまいました。そのせいか、その後はキツネにあぶらげをとられなくなりました。

(文：福岡 武彦)
(絵：安藤 實)

【加登屋食堂】
加登屋食堂は、駄知町にて営業をしておりましたが、平成10年頃に閉店しました。現在も加登屋の店舗や看板等はそのまま残っています。



このお話しは、(社)土岐青年会議所発刊の『土岐の昔ばなし』から転載させていただきました。